報道関係者各位

2024 年 9 月 30 日
株式会社 JDSC

三井物産グループの東洋船舶株式会社と JDSC が共同開発した 大規模言語モデル（LLM）活用ソリューション「AI 番頭」のサービスを開始

株式会社 JDSC（本社：東京都文京区、代表取締役：加藤 エルテス 聡志、以下「JDSC」）は、用船関連総合サービスの提供等、幅広く船舶関連ビジネスを手掛ける東洋船舶株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：大熊 一宏、以下「東洋船舶」）と大規模言語モデル（膨大なテキストデータを処理することで、人間の言語を理解及び生成できる AI システム。以下「LLM」）の活用により、業務の効率化と調査や確認作業の手間を最大限に削減する新ソリューション『AI 番頭』を共同開発しました。東洋船舶は 2024 年 10 月 1 日からサービスを開始します。『AI 番頭』は Anthropic 社（米国）が提供する生成 AI サービスである“Claude”を利用し、インターネットを介してお客様が本サービスに入力した問合せに対し、 海事産業特有の各種契約書や技術情報、規則情報、FAQ、メールなどの膨大なドキュメントを横断的に調査、回答することが可能です。これにより、従業者の問合せ対応時間を大幅に削減し、専門知識や経験に依存せず、一貫した結果が得られるようになります。

■『AI 番頭』の特徴

『AI 番頭』は、船舶運航管理上で生じる多種多様な課題を社内に蓄積されたドキュメントやメールをベースに、RAG(※)の技術を用い調査し、LLM が要約、回答、メールドラフト作成などの機能を提供します。また、これまで高度な知識を有する経験者でなければ回答できなかった専門性の高い内容や多言語による対応にも、経験の浅い社員が対応できるようになるなど、業務の平準化と人材活用の幅拡大、後継者への業務手法の引継ぎ、知識継承といった業務環境の改善に寄与します。

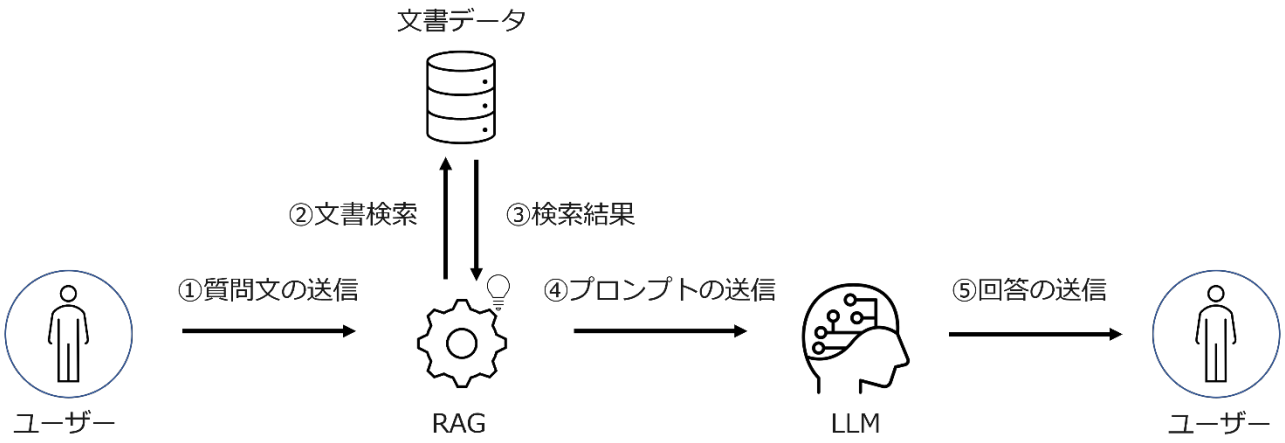


＜操作画面イメージ＞

■大規模言語モデル(LLM)の仕組み

船主は、一般的な船舶運航管理の知識に基づいて、所有船舶の運航や管理の業務を行います。しかし、時には船舶の問題や法的な手続き、用船契約のトラブルといった、特定の専門知識が必要な状況が発生します。こうした場合、船主は専門性を有する人材に依頼・指示を行い、過去の事例や法的な資料を調査し、得られた知見・情報を元に解決策を見つけます。専門性を有する人材の代わりとして、LLM は船主からの様々な質問に答えることができます。しかし、出典を引用した信頼できる回答を提供するためには、モデルにも調査を行うアシスタントが必要です。アシスタントに相当するものが、Retrieval-Augmented Generation（RAG）と呼ばれるプロセスです。RAG により取得した情報を元に、LLM が自然言語を用いた人間に近い流暢な会話を生成します。

(※)Retrieval-Augmented Generation(RAG）は、外部ソースから取得した情報を用いて、生成 AI モデルの精度と信頼性を向上させるテクノロジーです。



＜LLM 処理イメージ＞

JDSC は、LLM を活用した問い合わせ工数の削減、業務効率化は他業界の課題解決にも有効であると考え、今後「AI 番頭」をベースとした LLM ソリューションを普及拡大させていくとともに、蓄積されたデータサイエンスの知見を基に、AI や機械学習、数理最適化などの先端技術を社会実装することで、個社のみならず産業全体の課題解決に取り組み、日本のアップグレードに貢献していきます。

以 上

■株式会社 JDSC について　https://jdsc.ai/
JDSC は、物流最適化や需要予測、フレイル検知や教育など、基幹産業を中心とした幅広い分野で、一気通貫型の高付加価値な AI ソリューションを提供しています。アルゴリズムモジュールの開発とライセンス提供事業、IT システムの開発と運用事業、データサイエンスに関するビジネスマネジメント事業を行い、業界全体の課題解決に AI を活用し、日本の産業のアップグレードを目指しています。

《JDSC の 3 つの特長》
1 . AI アルゴリズムに関する技術面での豊富な知見
2 . AI による解決策の提示から実行まで一気通貫で支援するビジネス面での高い執行能力
3 . 大手企業との共同開発と産業横展開を両立する生産性の高いビジネスモデル

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】
株式会社 JDSC 広報担当 info@jdsc.ai